



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



教区の若者たちが力を発揮

ネットワークミーティング鹿児島大会

第31回ネットワークミーティングin鹿児島が9月24日から25日まで、鹿児島市桜島の国民宿舎レインボー桜島とザビエル教会であった。全国から青年110人が参加(同伴司祭・修道者を含む)。信仰のこと、現在のこと、将来のことなど、それぞれの抱える悩みや問題を分かち合い、交流と親睦を深めた。

ネットワークミーティング(以下、NWM)とは、さまざまな地域で活動するカトリックの青年やその活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集い、信仰や各自の抱える問題について分かち合うなど情報交換し、交流と親睦を深める場。年2回、教区持ち回りで開催される。

鹿児島での開催は8年ぶり2回目。テーマを「ゆ(ゆ)くいきやんせ」467(よくろんな)と題



ザビエル教会で記念撮影

し、第31回NWMin鹿児島実行委員会(武川真義会長)が主催した。カトリック青年連絡協議会とカトリック鹿児島教区が後援。全国16教区のうち、14教区から110人が参加した。初日(24日)、会場に集った参加者はまずアイス・ブレイキングとして、鹿児島にちなむクイズなどに挑戦。リラククスした後、10班に分かれ、会場敷地内の思い思いの場所で自己紹介も兼ねた分かち合いを行った。夕の祈りはテゼ

れた。

2日目(25日)、朝食後、フェリーで鹿児島本土へ。ドルフィンポイントから祇園之洲にある聖フランシスコ・ザビエル上陸地までの約2kmを徒歩で移動。記念碑前では、鹿児島教区青年会(岩崎信幸会長)の上演したオリジナル戯曲『ヤジロウ/初めてキリスト教徒になった日本人』(高竿祐貴作)を鑑賞した。炎天下、出演者は汗みずくで熱演。ユーモラスな演技が会場を沸かせるとともに、ザビエルのキリスト教

特別聖年の閉幕式

11月20日14時から

カテドラルで

昨年12月8日から始まった「いつくしみの特別聖年」は、11月の王であるキリスト(20日)の祭りで閉幕する。パチカンの聖ペト

口大聖堂では、この日に聖年の扉を閉じる式が行われる。地方教会では、11月13日にカテドラルで閉幕式を行うこと、教区司教が定めた巡礼所では、感謝のためミサをささげられるようにとの指示が出されている。鹿児島教区では、13日が「福者レオ税所七右衛門殉

道標

9月に全国から1000人あまりのカトリック青年が桜島に集まって、ネットワークミーティングが行われました。そして、その終了後、教区本部で青年連絡協議会の運営委員会が開かれました。これは、「教区を超えてカトリック青年の活動を支援し、促進することを目的とし」て、2000年に立ち上げられた組織です(顧問は梅村昌弘横濱司教)。

この「青年信徒の活躍に期待 再来年8月、日本カトリック青年大会

今年、四国松山でのネットワークミーティングと青年連絡協議会に初めて参加しました。そのとき、全国から集まって、信仰を分かち合い、つながりの輪を広げようとしている大勢の青年たちに出会って頼もしく

共同体的なスタイルで、ろうそくのみを灯した会場で、ギター伴奏による聖歌3曲を交えた静かな祈りの時間を過ごした。夕食後は交流会。会場では、過去のNWMを通して、また今夏のワールドユースデー・クラクフ大会で巡り合った知己と旧交を温める姿や、初対面ながら意気投合し談笑する姿も見ら

うか。今春、四国松山でのネットワークミーティングと青年連絡協議会に初めて参加しました。そのとき、全国から集まって、信仰を分かち合い、つながりの輪を広げようとしている大勢の青年たちに出会って頼もしく

感じ、大きな希望を持ちました。この交わりと輪をさらに広げたい気持ちが深まり、自覚して生まれたのが「青年使徒」という言葉ではないかと思えます。企画書によれば、時期は2018年8月、4泊5日、4000人規模(予定)です。場所は現在、埼玉と和歌山の施設が候補に挙がっています。一人ひとりの信仰は仲間とのつながりの中で支えられ、強められていきます。鹿児島教区の青年が一人でも多くこの大会に参加して、キリストとつながっていることの喜び、仲間と出合い、つながることの喜びを体験してもらいたいと思えます。(教区本部 末吉卓也)

福者レオ税所七右衛門 殉教祭

2016年11月13日(日)

プログラム

- 12:20 京泊天主堂駐車場集合 (薩摩川内市港町6232)
- 12:30 巡礼行列
- 13:00 京泊天主堂跡で祈りと聖歌
- 14:30 川内教会でセレモニー (薩摩川内市若松町4-7)
- 15:00 殉教記念ミサ



「教区評議会」であるため、カテドラルでの閉幕式を20日14時に行う。また巡礼所と指定されている奄美大島の名瀬聖心教会と徳之島の母間教会では、13日に感謝のためミサをささげる。

教区評議会を開催

11月3日(日)午前10時からカテドラルで教区評議会が行われる。教区評議会は、教区宣教100周年を機会に199

司教によって召集されるこの教区評議会の構成メンバーは、基本的には各小教区の主任司祭と信徒代表1人、他に議題により司教が必要と認める者若干名となっている。今回のテーマは、「神のいつくしみの特別聖年にあたり、信仰の伝達と班制度の生かし方」。

前回2014年の教区評議会では、「教区の宣教司牧の根幹をなす制度」である班制度について学び直しが行われた。その後、各小教区で班制度はどのように生かされているかを踏まえ、信仰の伝達と神のいつくしみのわざをどのようにしたらよりよく実践できるかを探ることが今回の目的である。

神学生の「僕の長崎への道」

日本二十六聖人の道を歩いて

2月20日(土) 大阪―堺 ―堺引き廻しの道:約17km

きのう、崔周永助祭は夕刻から何度も駅を行き来、僕を待っていてくれたとピアンネ館責任者のセグラ神父から聞いた。嬉しさと申し訳なさが入り交じり、ただただ感謝。遅い夕食、助祭お手製のテール・スープを啜ってようやく落ち着いた。

「疲れてるだろうから、ミサはいいからね」。昨晩の神父の言葉に甘え、寝坊を決め込む。足裏の肉刺を処置。針を通し水を抜く。肉刺は両足とも、親指と小指、土踏まずを除く足裏全体にあった。シャワーを浴びる。昨晩のテール・スープのほか、トースト、ゆで卵、コーヒ―、果物の朝食。

セグラ神父は愉快だ。食卓に同席のトアン神父と崔助祭をからかっていた。崔「いつも冗談を言い合っている」とトアン神父。共同



熊野街道の碑

司牧の、暮らしの一端がうかがわれる。

午後9時過ぎ、小雨のなか、ピアンネ館を後に。崔助祭が河内永和駅まで見送ってくれた。鶴橋で乗り換え、京橋へ。駅前の薬局で包帯を購入。その場で患部をぐるぐる巻く。

大阪城を経て谷町筋方面へ。大阪牢屋跡(現中大江小学校)まで、足裏の肉刺が痛み、ペースが上がる。校門前にいた少年に頼み、記念撮影。雨に曇る寒空を見上げ、かつてここにあった牢屋で一晩を明かした聖人たちの想うのは侘びしい。牢屋跡から南へ。道は旧熊野街道。途中、空堀商店街を経由。庶民的な空間に好感を抱くも、足の肉刺が気になり観光気分には程遠い。

四天王寺参道を抜け、天王寺に至ったのは正午過ぎ。繁華な所で食事する気になれず、谷町筋を下る。松虫交差点でふたたび旧熊野街道に。交通量の少ない、神社仏閣の並ぶ風情ある小径。にもかかわらず、高級乗用車が速度を上げて僕の傍らを擦過した。現代、道は歩行者のためでなく、車両のためにある。

帝塚山から堺への途中、雨足が強まる。錦綾町交差点を右折、堺引き廻しの経路に入るや本降り。ずぶ濡れになって市中を歩く。これを聖人たちは「(見守る)異教徒たちの男女を問わない同情の涙」の中、進んだ。「彼らの謙遜と、死

に對峙しての喜びを見る者

私たちは驚いた」という(フロイス『日本二十六聖人殉教記』)。一方、濡れ鼠となつて歩む僕は、行き交うドライバーたちの嘲笑か好奇の的である。

途中通過した南海本線堺駅に戻る。堺教会へ電話。所在地を尋ねると、村田稔神父が車で迎えにきてくれた。恐縮至極。午後5時前、堺教会着。

2月21日(日) 堺―大阪 :約15km

昨晩、村田稔神父と教会近隣の温泉へ。だからか、目覚めたとき、身体が朧に思われた。しかし、身を起し床に足を下ろした途端、鋭い痛みが。堪らず、唸り声。午前7時、ミサ。侍者を務める。

俗な言い方になるが、村田神父は格好いい。肩まで届く長髪、敏捷そうな瘦躯。見た目ばかりではない。会衆に外国人をみとめ、日本語で説教をした後、これを直ぐさま英語で

語った。真実、スマートである。

朝食後、堺教会を発つ。最寄りの三国ヶ丘駅から一駅、堺東駅下車。国道2号線を北上、錦綾町交差点へ。きのう来た道に戻る。

2月22日(月) 大阪―神戸 戸三宮:約40km

高麗橋から梅田へ。中津川を経て、十三大橋を歩み淀川を渡る。淀川を越える時、いよいよ西国という気が。神崎川を越え南下、国道2号線に。これをほぼ一直線に西進すれば神戸である。

歩道を行きつつ、歩道とはいえず、これは歩行者のためでないと思う。必ず、右か左かに傾斜。水はけのため、あるいは車道からの乗り入れのため。普段、気にもならない些細なこと。だが、これを長距離歩くのは難儀する。左右のバランスを保つため足裏が、接地すると同時に微妙に調整を図る。これが肉刺をつくる原因の一つでもある。長距離離走者が膝や腰を痛める筈。やはり現代、道は歩行者のためでなく、車両のためにある。

大物あたりで国道2号線を離れ、旧中国道へ。かつて西海道とも呼ばれ、近世

月刊『福音宣教』2017年のご案内 年間テーマ「みことばを生きる」

- 特別企画 対談「これからの社会と宗教のあり方を考える」英隆一朗+平野克己/ネルケ無方/中島岳志
- 新連載 「福音を生きる―現代社会とアシジの聖フランシスコの霊性」竹田文彦、「虹の生まれるところ」有沢螢、「神さまって…子どもたちとの対話」小林由加、「食べて味わう聖書の話」山口里子/牧野幸子(4月号開始)
- 新リレー連載 「教会共同体を生かす秘跡」石井裕裕/嘉松宏樹/南雲正晴 他、「今、再び出会うリジュアの聖テレーズ」中川博道/片山はるひ 他

※詳細はホームページをご覧ください。
※年11回発行(8・9月合併号)、1部540円(税込・送料別)。年間定期購読料6300円(税・送料込)。

＜お申し込み＞
郵便振替用紙で年間定期購読料をお振込みください。
振替口座番号：00170-2-84745
加入者名：オリエンズ宗教研究所

＜お問い合わせ＞
オリエンズ宗教研究所
Tel：03-3322-7601
Fax：03-3325-5322
URL：http://www.oriens.or.jp

文芸

短歌

浜木綿の実太りゆく墓原に夫父母妹の霊は眠るよ
始良教会 川口 節子

聖ファウスティナ主より託されチャブレット聖堂にひびくキリストの愛
鹿兒島純心 川上 和

叙階の儀呼び出し受けし朴助祭「ハイ」の一声天に届けり
鹿兒島純心 川上 和

俳句

台風過ぎたる秋の空澄みて緑明けし高千穂の峰
吉野教会 徳永ノブ子

初ミサに心の糧をいただきし
鹿兒島純心 川上 和

ロザリオをつまぐさる道の落ち葉舞う
始良教会 川口 節子
彼岸花天に向かい咲き満てる
国分教会 政 ノブ子
時忘れ捲るミサ書や秋の月

カトリック通信講座のご案内

信仰を深めるために、また受洗準備、洗礼のお祝いにもご活用いただけます。

＜全7講座＞

- T001=「キリスト教とは」日本の宗教観に照らして学ぶキリスト教の概要。
- T002=「聖書入門〔I〕」四福音書を通してイエスの生涯をたどる。
- T003=「キリスト教入門」キリスト教の秘跡や信仰生活について学ぶ。
- T004=「神・発見の手引」人生、自然を通して神の呼び声に耳を傾ける。
- T005=「聖書入門〔II〕」使徒の働きとその手紙、黙示録について学ぶ。
- T006=「幸せな結婚」カトリックにおける結婚の意味や愛、幸福とは？
- T007=「生きること・死ぬこと」生殖医療、老いや命について考える。

＜受講料＞(教材費・税込)
T001～T004 各4800円
T005～T007 各5300円

＜お申込み＞

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号(T001～T007)をご記入のうえ、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送り致します。
振替口座番号：00170-2-84745
加入者名：オリエンズ宗教研究所

＜お問い合わせ＞

オリエンズ宗教研究所「カトリック通信講座」
Tel：03-3322-7601
Fax：03-3325-5322
詳細はホームページをご覧ください。
URL：http://www.oriens.or.jp

シドッチ神父屋久島上陸記念祭

日時：11月23日(水) 14時～17時
場所：神父シドッチ上陸記念碑前

14時 式典とミサ
挨拶 塩川文博氏(屋久島町教育委員長)
岩川修一氏(小島区長)
郡山健次郎司教(鹿児島教区長)
講話 「宣教師シドッチが伝えたもの」
マリオ・カンドウッチ神父
(フランススコ会)

ミサ 司式：郡山健次郎司教
16時 講演と茶話会(小島区公民館)
①「遺骨調査とDNA鑑定、その謎を探る」古
居智子さん(作家)
②「シドッチ・プロジェクトと屋久島の未
来」牧 良平氏(屋久島の観光を考える会
最高顧問)
交流会 17時(農家民宿「山の瀬」)
参加費 1,500円

地元とともに歩むために

今年は趣向を凝らしてシドッチ祭

11月23日(水)に「シド
ッチ神父上陸記念祭」が屋
久島で開かれる。
シドッチ神父は、福音宣
教のため1708年、鎖国令
下にあった日本(屋久島)
に上陸した。しかしすぐに
捕らえられ、長崎を経て江
戸のキリシタン屋敷送りと
なり、そこで幽閉されて1
714年に死亡している。
それから300年が経過
した2014年には、キリ
シタン屋敷跡から人骨が発
掘され、今年4月にDNA

鑑定の結果、その骨がイタ
リア人のもので、その体格
からシドッチ神父のもの
と確定されている。
今年の4月から屋久島教
会を担当する種子島教会主
任司祭の柘尾泰英神父は、
キリシタン屋敷跡から出たも
のがシドッチ神父の遺骨と
確定されたのを「地元と
ともに歩む機会にしよう」と
これまでとは一味違った記
念祭を計画して、大勢の信

者の出席を呼びかけてい
る。
神父によると今年の記念
祭は「式典とミサ」の第一
部、「講話と茶話会」の第
二部、「交流会」の三部か
らなる。「神父シドッチ上
陸記念碑」前での第一部で
は、屋久島町教育委員長や
小島地区長、郡山司教が接
拶し、「宣教師シドッチが
伝えたもの」を演題にした
講話もあり、ミサがささげ

+KABAYAN SEKSYON+

Si Kristo sa Mukha ng mga Mahihirap

Sa pagpapatuloy ng kanyang mensahe, ipinahayag ni Papa Francisco: "Sa pagtulad sa ating Dakilang Guro, tayong mga Kristiyano ay kailangang labanan ang karukhaan ng ating mga kapatid, abutin ito, gawin itong atin din at hanapan ang mga praktikal na solusyon para tapusin ito. Hindi magkatulad ang paghihikahos at karukhaan: ang paghihikahos ay karukhaan na walang pananampalataya, walang suporta, walang pag-asa... Ang materyal na paghihikahos ay karaniwang tinatawag na karukhaan, at nakakaapekto sa mga taong namumuhay sa mga kondisyong salungat sa dignidad ng tao."

"Bilang tugon sa ganitong paghihikahos, inaalay ng Simbahan ang tulong, ang kanyang paglilingkod, para matugunan ang mga pangangailangan at para mapaghilom ang mga sugat na sumisira sa mukha ng sangkatauhan. Nakikita natin ang mukha ni Hesus sa mga dukha at mga itinatakwil; sa pagmamahal at pagtulong sa mga dukha, minamahal at pinaglilingkuran natin si Kristo."

"An gating mga pagsisikap ay nakatuon din sa pagwawakas sa mga paglabag sa makataong dignidad, diskriminasyon, at pang-aabuso sa daigdig, dahil ang mga ito ang karaniwang pinagmumulan ng paghihikahos. Kapag sinasamba ang kapangyarihan, karangyaan, at pera, ang mga ito ang unang pinapahalagahan sa halip na makatarungang pagbabahagi ng yaman. Kailangang baguhin ang gating mga konsensya para kumiling sa katarungan, pagkakapantay-pantay, kapayakan ng buhay, at pagbabahaginan."

Ang ganitong pag-uugaling nakikilala sa mga dukha ang katauhan ng ating Panginoon Hesus Kristo, ay nagpapatotoo na kinikilala din natin ang Diyos Ama na nasa Langit na siyang larawan ng Bugtong na Anak. Na ang sinumang nakakikita sa iyo ay nakakakita rin sa Ama. Dahil ang Panginoon Hesus ay ang mukha o larawan ng Ama at sa mga dukha ang larawan ni Hesus.

Kaya huwag nating balewalain ang mga dukhang naghihikahos bagkus maibahagi din natin sa kanila ang mga bagay-bagay na ibinibigay sa atin ng Diyos, bilang kanyang biyaya sa atin diyang kay Hesus.

Katesismo sa Taon ng mga Dukha (Fr. Dino Orolfo)

司教執務室便り

聖年の心を生きる

十一月と聞けば、「あと二カ月で一年が終わるなあ」と感慨に浸りま
す。死者の月であるということと相
まって、思わず襟を正したくなる
言ったら大げさでしょうか。

ともあれ、いつくしみの大聖年が
始まって、早や一年。二十日には聖
年の扉を開める式が執り行われて一
応の区切りがつけられます。「一応
の区切り」と言ったのは、神さまの
いつくしみは、神さまの子らとして
生涯学び続けるべきことだからで
す。皆さんは、どんな風にこの一年
を過ごしてこられたのでしょうか。
そこで、一応の区切りをつけるに

あたって、聖年の心みたいなきこ
ついで少し書いてみたいと思いま
す。
旧約聖書には多くの美しい話があ
りますが、私が好きなものの一つに
ヨベルの年があります。ヨベルとは
牡羊の角のことで、七年に一度やっ
てくる安息年を七回過ぎたあと、
この牡羊の角で作った笛を吹きなら
して解放の年を祝ったのだそうで
す。

エジプト脱出後のイスラエルの民
はマンナに養われてみんなが過不足
なく平等に生活しました。神さまと
の関係も一番良好だったと言われま
す。しかし、約束の地にたどり着
き、定住生活が始まると貧富の差が
生じ、支配者と被支配者の差も生ま
れました。異教の神々をも礼拝する
ようになり、神の民は大きく変質し

ていきました。
こうした生活に終止符を打ち、神
の民らしい生活を再スタートさせよ
うとしたのが安息年だったわけ
です。安息年には、土地を休ませ、奴
隷は解放され、手放した土地は元の
所有者に戻されました。これは、
「すべては神のものなので神に返す
べきだ」ということを明確にし、神
の民らしい心の姿勢を取り戻すた
めになされたことだったのです。

聖年がこうした背景のもとにはじ
められたことを心に留める必要があ
ります。そして、大聖年後の毎日
は、私と神と身近な人、それに自然
という三つの関わりに対する心の姿
勢を見直す「継続可能な
聖年」と言えるでしょ
う。レビ記二十五章を是非
お読みください。



短信

▼今年の夏期集中講座
「光の中にイエスの顔が
あるから」をテーマにし
て、8月22日(月)から26
日(金)までザビエル教会
で開催された夏期集中講座
(講師・竹山昭神父)に
は、午前と午後の部合わせ
て98人の受講者があり、熱
心に学習がなされた。

11月の学びの講座
26日(土) 19時
27日(日) 14時
テーマ 煉獄の霊魂
講師 末吉卓也神父
場所 教区本部

祈りの意向
【ノベナ】教区評議会の実り(4日～14日)
【祈祷の使徒会】世界共通・難民を受け入れる国々
宣 教・司祭と信徒の協働
日本の教会・死者のために祈る

30日(水)	聖アンデレ使徒	27日(日)	待降節第1主日	24日(木)	聖体礼拝・カテドラル・6時30分	23日(水)	シドッチ祭・屋久島教会・14時	22日(火)	司教評議会・教区本部・14時	21日(月)	司教評議会・教区本部・14時	20日(日)	王であるキリスト	19日(土)	正義と平和協議会「講演会」・ザビエル教会ホール・10時	18日(金)	正義と平和協議会「学習会」・教区本部・15時	15日(火)	教区巡礼委員会・教区本部・19時	13日(日)	福者レオ税所七右衛門殉教祭・12時30分・京泊教会跡地及び川内教会	12日(土)	Y O U C A T 学習会・教区本部・15時	10日(木)	ガブリエル神父命日(1978年)	9日(水)	ラテラン教会の献堂	6日(日)	年間第32主日	5日(土)	司祭のメリア運動・ザビエル教会・13時	3日(木)	教区評議会・カテドラル・10時	2日(水)	死者の日	1日(火)	諸聖人
--------	---------	--------	---------	--------	------------------	--------	-----------------	--------	----------------	--------	----------------	--------	----------	--------	-----------------------------	--------	------------------------	--------	------------------	--------	-----------------------------------	--------	--------------------------	--------	------------------	-------	-----------	-------	---------	-------	---------------------	-------	-----------------	-------	------	-------	-----

▼玉里教会堅信式・9時
▼死者のためのミサ・カトリック唐湊墓地・14時
▼死者のためのミサ・カトリック納骨堂前広場(奄美市)・11時

会と催し (11月)

ザビエルの道を辿って

中高生が活躍「伊集院徒歩巡礼」

青年会が桜島で「ネットワークミーティングin鹿児島」を開いていた9月25日、教区ではもう一つのエネルギーギッシュなイベントが行われていた。長年、青年会が担ってきた「伊集院巡礼」だが、ネットワークミーティング(以後、NWM)の都合により絶えるかとも思われた今年、ピンチを救ったのは中高生であり、結果として大成功を収めた。

【準備】

青年会がNWMに数カ月前から打ち込んできたのと同様に、ロザリオ会も数カ月前から準備を開始した。6月にはポスターを作成し、7月から各教会に配布して回った。さらに、同じミッションスクールのように、直接話し合いをした。

【当日】

9月25日、朝8時にザビエル教会に集合したのは、37人の中高生と、あわせて10人にもなる引率の教師、そして一般信徒の方々と、50人強を数える大行列となった。

今回、青年会の不在を救ったのは、ラ・サール学園ロザリオ会という中高生の部活動であった。信者と未信者が一緒になって、聖書学習や各種行事への参加をしてきたが、今回は行事を主催するとなって、いつもの力のこもった活動となった。ちなみにこの行事は、鹿児島上陸後のザビエルが布教の公式な許可を得るため、伊集院に住んでいた大



謁見の碑の前で

ザビエル像の前でロザリオの祈りを唱えた後、我々は目的地の伊集院の城山(じょうやま)公園を目指し、25キロの旅にでた。途中、急な坂や壮大な田園風景を目にしたが、また、要所ごとにロザリオの祈りをしながら、6時間半かけて歩き通した。

目的地では、NWMの関係で不在の郡山司教に代わって、川内教会の大松神父がミサを立ててくださり、信者、未信者の別なく全員がミサにあずかった。みな、大いなる喜びのうちは無事、一日の巡礼を終えることができた。

キッペス神父の黙想会 他者にイエズスを見る目

11月18日(金)18時~20日(日)16時30分
場所: マリア山荘(霧島市溝辺町3616-4)
参加費: 15,000円(宿泊代・食事代含む)
申込: 福沢智子 TEL.090-2083-9223
e-mail: fuku-h@ml.satsuma.ne.jp

か

最後にありますが、今回の巡礼を支えてくださり、またともにお祈りくださった教区の多くの方々、青年会、そして純心学園の先生方に心からの感謝を申し上げます。

(ラ・サール学園 ロザリオ会会長 橋本佑太郎)

鈴木神父のやさしいみ言葉

旧約聖書と新約聖書

イザヤの預言に於ける「おとめ(ヘブライ語アルマー)を踏襲し(7・14)、福音記者マタイは「おとめ(ギリシア語パルテノス)」に本来の意味はない「処女」を読み込んだ、という話をしてみました(マタイ1・23)。このような福音書の読み方に違和感をもつ方もおられるかもしれません。しかし、新約聖書を読むにあたって、イエス様は旧約聖書が預言していた救い主である、という点に留意されなければなりません。

つまり、新約聖書とは当然のことながら旧約聖書を踏襲し、新約的観点から旧約の意味を問いただした箇所が多数あるのです。このため福音書だけを読んでもその深みに達することはできないことでもあります。

「聖書」とは私たちが旧約聖書と呼ぶものであり、ユダヤ人であるのなら誰でも知っている内容であること、新約が書かれていることを忘れてはならないのです。また、これとは逆に、

いつくしみの特別聖年「祈りの集い」 テーマ「いつくしみは、あなたたちの心を変えてくれる」

あなたたちの心を変えてくれる

定期的な年4回ほど行っている「祈りの集い 一日黙想会」(場所・レデンプトール宣教修道女会・唐湊修道院)の今年の第3回目は10月8日(土)参加者13人で開催され、締めくくりはアン神父様(ザビエル教会)によるゆるしの秘跡と、ご自分の黙想なされた

実りを分かち合って下さったのミサで、恵みの一日を終了しました。この実りの一部分を分かち合いたいと思います。

黙想の同伴者のシスターモニカによる導入のあと、午前中は「現代に一番必要な七つの慈善のわざ」(①あなたはわたしたちの仲間一人です。②親身になって、あなたに耳を傾けています。③あなたのことを、わたしは肯定的に言っています。④途中であなたがたに同伴します。⑤あなたと分かち合っています。⑥あなたを見舞っています。⑦あなたの為に祈っています。⑧あなたのことを分かち合っています。⑨の黙想と、分かち合いを聖堂で行い、午後からは「沈黙の分かち合い」の形式で黙想しました。



「沈黙の分かち合い」の形式で黙想しました。テーブルに広げられた、

用紙の周囲に2つのグループに分かれて集まり、次の質問に答える形で、①「いつくしみ」のもう一つに言葉(表現)は?②わたしにとって「いつくしみ」とは?③「いつくしみ」に対するわたしの疑問は?について沈黙のうちに黙想し、黙々と自由に用紙に書き込みを見守ったり、味わった「同感」のしるしであるマークを付けたりしました。

①の質問に対しての書き込みの分かち合いは、寄り添い・ゆるし・伸直り・愛・まなざし・やさしさ・いたわりのまなざし・親心・慈悲・思いやり・親切な心・与える・安心・和・微笑み・温かさ・差し出す・寛容な心・救い・感謝・喜び・信頼・道・言葉の豊かさ、言葉の深さや広がり参加者一同は驚きの声をあげ、黙想の実に感謝しました。(報告・シスター安藤克子)



新約では旧約の内容がどのように描き直されているのにも注目する必要があります。つまり、旧約の神と新約の神という区別を付けることができないように、旧約と新約との間に断絶はないのです。

このこと具体例が「おとめ」という言葉をめぐって考察だったので、確かに、旧約聖書はなかなか馴染めないものです。しかし、福音書を念頭に置きながら読み続けていくと、どこかで似た表現や場面、あるいは逆の内容があることに気が付くこともありま

